令和６年度

福津市学校教育ドリームプラン

福津市教育委員会

福津市の教育施策の特徴

この学校教育ドリームプランは，重点的に取り組む福津市の教育の方向性を示したものです。

本市では，「生きる力」を育むために，「志をもち，未来をたくましく切り拓く子ども」の姿をめざして，学校・家庭・地域がそれぞれの役割を担い，責任を果たしながら共働して教育をすすめています。

主に，学校・家庭・地域が連携・共働してそれぞれの役割を明確にしながら，「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を学校教育と社会教育の双方から社会総がかりで子どもの成長をめざし，教育の充実を図っていきたいと考えています。

本市では，平成 18 年 8 月に福津市教育委員会が制定した，「福津市学校運営協議会規則」に基づき，平成 23 年 6 月には全ての小・中学校に学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールが全面実施となりました。

福津市コミュニティ・スクールの特色は，郷づくり推進協議会（郷づくり）が各小学校区に１つ（津屋崎小学校区には２つ）あり，学校と地域がひとつになり，未来を担う子どもたちを地域みんなで育てるという視点で活動していただいていることです。

本年度は，コミュニティ・スクール推進 14 年目となり，新化期②（１年次）として「令和６年度福津市学校教育ドリームプラン」を策定します。

新化期②では，これまで各中学校区で取り組んできた**特色ある小中９年間を見通した連続性のある教育活動を継承しながら，各活動の深化・充実**を図っていきます。

以下のとおり，学校教育と社会教育の両輪による７つの教育施策から構成しています。

- □　施策Ⅰ　コミュティ・スクールの新化
- □　施策Ⅱ　向学心を高める取組の充実
- □　施策Ⅲ　学校における教育環境の整備
- □　施策Ⅳ　今日的課題に対応した教育の充実
- □　施策Ⅴ　生涯学習の充実　地域・家庭の教育力向上
- □　施策Ⅵ　子どもの体験活動の充実
- □　施策Ⅶ　スポーツ・文化芸術の活動

令和６年度　福津市学校教育ドリームプラン　2024　概要図　（◎は本年度の重点）

志をもち、未来をたくましく切り拓く子ども

認め合い、鍛え合い、創造する子ども

規範意識や社会性を身に付けた子ども

福津のよさに学び、貢献する子ども

施策Ⅰ　コミュニティ・スクール（C・S）の新化（新化期②：1年次）

◎各中学校区の特色化と小中9年間を見通した連続性のある教育活動の深化・充実
◎コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の充実
〇グランドデザイン説明会・報告会及びコミュニティ・スクール実践報告会の開催
〇学校運営協議会における熟議の実施

主に学校教育

施策Ⅱ　向学心を高める取組の充実

◎市学力向上スタンダードの徹底
◎学級集団アセスメントによる実態把握
〇全国及び県学力調査を踏まえた授業改善研修の実施
〇市統一学力調査の実施と授業改善　〇若年教員対象の実践研修の実施
〇GIGAスクール推進員対象の実践研修の充実

施策Ⅲ　学校における教育環境の整備

◎過大規模校や老朽化に対する改築及び増築等の施設整備
◎特別支援教育の更なる充実　〇不登校児童生徒の自立支援
〇いじめの未然防止、早期発見・対応
〇日本語指導が必要な児童生徒への支援

施策Ⅳ　今日的課題に対応した教育の充実

◎個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進
◎働き方改革の推進　〇若年教員研修１年目指導教員研修の実施
〇保・幼・小・中・（高）の連携推進　〇SDGsに向かうESDの推進

地域学校協働本部と連携

主に社会教育・家庭教育

施策Ⅴ　生涯学習の充実　地域・家庭の教育力向上

◎福津市中学生未来会議の開催
◎郷育カレッジと学校との連携
〇地域・家庭の教育力向上の支援
〇FUKUTSUコミュニティ・フェスタの開催

施策Ⅵ　子どもの体験活動の充実

◎青少年育成団体の支援　〇アンビシャス広場の支援
〇親子野外活動支援事業の実施

施策Ⅶ　スポーツ・文化芸術活動の充実

◎部活動地域移行への取組　◎世界遺産学習の推進
〇海洋スポーツ体験活動の実施
〇体力チャレンジ　ランキングinふくつの開催
〇芸術文化事業の開催・支援　〇読書活動の充実

福津市総がかりで子どもを育む教育の実現

地域自治の視点にたち、まちづくりを進める福津市（こども課、地域コミュニティ課との連携協働）

施策Ⅰ	コミュニティ・スクール（C・S）の新化（新化期②：1年次）

施策の目的	○ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進により、各中学校区の特色化と小中9年間を見通した連続性のある教育活動を推進していく。

主要事業	
事業名	内 容
各中学校区の特色化と、小中９年間を見通した連続性のある教育活動の深化・充実	◎各中学校区の教育資源を活かすC・Sと地域学校協働活動の一体的推進を図り、各中学校区の特色化を図る。 ◎小中9年間を見通した連続性のある教育活動 ・コア・カリキュラム（中学校区共通課題解決を図る教育課程）の編成・実施 ・課題別部会の取組促進 ・異校種交流の推進
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の充実 ☆地域コミュニティ課との連携	◎学校を核とした地域づくりの構築を目指した地域学校協働活動の推進 ・統括地域コーディネーター連絡会の開催 ・地域学校協働活動推進員連絡協議会の開催（年間3回） ・地域人財バンクの共有
グランドデザイン説明会・報告会及びコミュニティ・スクール実践報告会の開催	○各中学校区のグランドデザイン及び自校の重点を、家庭・地域に説明し、学校・家庭・地域が共働する視点を共有するともに、報告会において、1年間の成果や課題を報告し、次年度の方向を共有する機会とする。
学校運営協議会における熟議の実施	○グランドデザインの内容や、各校の経営の重点の進捗について評価し、教育内容や学校・園組織等の質的向上を図る。

指　標			
指標	指標の概要・根拠資料	R5実績	R6目標値
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進	「子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、子どもの地域への理解・関心が深まった」の肯定的回答の割合（地域コーディネーター対象調査）	92%	95%
地域・保護者の方の参加・協力	直接的な協力と間接的な協力の延べ数	・直接4642名 ・間接1026名	・直接 4700名以上 ・間接 1100名以上
児童・生徒の地域貢献活動	教育課程内・課程外において、地域で貢献活動を行った児童生徒の延べ数	・（内）2483名 ・（外）1158名	・（内）2500名以上 ・（外）1200名以上
地域行事への参加	「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的回答の割合	・小 48.2% ・中 28.7%	・小 50%以上 ・中 30%以上
地域や社会への貢献意識	「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う」の肯定的回答の割合	・小 74.4% ・中 61.7%	・小 75%以上 ・中 65%以上

施策Ⅱ	向学心を高める取組の充実

施策の目的	○小中 9 年間を見通した連続性のある教育の実現を目指し、各学校における魅力ある授業づくりや安心感のある学級づくりを推進するとともに、非認知的能力の育成を中心とした学力向上を図る。

主要事業	
事業名	内容
市学力向上スタンダードの徹底	◎教頭研修会を学力向上推進会議として位置付け、各学校での日常的な教室訪問等を通して、「福津市学力向上スタンダード」の検証・改善を図り、小中 9 年間を見通した連続性のある学力向上を目指す。
学級集団アセスメントによる実態把握	◎WEBQU により、年間2回、学級集団の状況や児童生徒の課題等を即時的且つ客観的に分析し、学級集団の改善策や個別の支援策に活かす。また、学級力向上研修会を行い、より有効な活用を目指す。
全国及び県学力調査を踏まえた授業改善研修の実施	○主幹教諭研修会において、全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の結果分析に基づく授業改善研修会を実施し、小中 9 年間を見通した連続性のある学力向上を目指す。
市統一学力調査の実施と授業改善	○小・中学校全児童生徒を対象とした市学力調査を実施し、基礎・基本及び活用力の定着状況を把握し、授業改善に活かす。
講師等若年教員対象の実践研修の実施	○授業力や経営力の高い先輩教員の授業や講義・演習を通して学ぶ研修会、指導主事が学習指導や学級経営について個別の指導を行う研修会など、若年教員の実践的な指導力量を高める。
GIGAスクール推進員対象の実践研修の充実	○授業実践を通した GIGA スクールを推進する中核教員の育成 ・ICT 機器を効果的に活用した授業研究と協議 ・GIGA スクール推進員情報交換会の開催 １人１台端末を活用した個別最適な学びを進め、児童生徒の資質・能力を向上させる。

指　標			
指標	指標の概要・根拠資料	R5実績	R6目標値
全国及び福岡県学力調査結果	小・中、国語・算数（数学）の全ての区分での福津市平均	全区分で全国及び県平均を上回る	全区分で全国及び県平均を上回る
全国学力調査質問結果	○「授業では、自分の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」の肯定的回答の割合（主体的・対話的で深い学び）	・小 78.5% ・中 74.6%	・小 80 %以上 ・中 80 %以上
	○「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答の割合（自尊感情）	・小 84.1% ・中 81.6%	・小 85 %以上 ・中 85 %以上
WEBQU での学級集団の状態【活性度】	○学習指導面での学級全体の状態の割合（【創造】【活用】の状態である学級の割合）	・小 73.3% ・中 61.4%	・小 75%以上 ・中 65%以上
WEBQU での学級集団の状態【安定度】	○生活指導面での学級全体の状態の割合（【安定】の状態である学級の割合）	・小 64.7% ・中 34%	・小 70%以上 ・中 40%以上

施策Ⅲ	学校における教育環境の整備　　（新化期②：1年次）

施策の目的	○児童生徒の多様なニーズに応えるための環境の整備を進め、「誰一人取り残さない」教育の実現を目指す。

主要事業	
事業名	内容
過大規模校や老朽化に対する改築及び増築等の施設整備	◎増加する児童生徒数に対応するため、校舎の増築を含めた施設の拡充を行う。また、長寿命化計画に基づき、施設の老朽化対策や適正な維持管理に努める。
特別支援教育の更なる充実	◎特別支援教育担当者及び支援員の専門性を高め、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握及び適切な支援を効果的に行う教職員を育成する。 ・校内で特別支援教育の中核を担うコーディネーターの専門性の向上 ・特別支援教育研修会（年2回）による専門性の向上 ・通級指導教室担当者連絡会による専門性の向上
不登校児童生徒の自立支援	○各中学校区にSC3名とSSW3名を配置し、学校との役割を明確にしつつ、関係機関と連携を強めることで、学校への復帰、社会的自立及び引きこもりの児童生徒への登校支援に努める。特に、教育支援センター（ひだまり）と学校と緊密な連携により、児童生徒の自立支援機能を強める。
いじめの未然防止、早期発見・対応	○福津市及び各学校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめ見逃し0に努め、いじめを生まない教育活動の推進、早期発見、早期対応に取り組むとともに、市いじめ問題対策連絡協議会、市いじめ防止対策審議会との情報交換等を通して、組織的対応を行う。 ○WEBQUを活用し、いじめの未然防止を図る。
日本語指導が必要な児童生徒への支援	○福津市における持続可能な日本語指導体制を構築する。 ○日本語指導担当教員、日本語指導担当者、日本語指導支援員（外部人材）の確保と育成を図る。

指　標			
指標	指標の概要・根拠資料	R5実績	R6目標値
不登校の発生率・復帰率	○市内小・中学校の不登校発生率 ○市内小・中学校への復帰率	発生率（100人当り） ・小　1.7%　（▼0.2） ・中　5.0%　（△0.1） 復帰率（100人当り） ・小 30.9%　（未） ・中　2.1%　（未）	・発生率は前年度を下回る ・復帰率は前年度を上回る
いじめの認知率	○市内小・中学校のいじめの認知率	認知率（100人当り） ・小 11.6%　（△1.1） ・中　2.7%　（▼0.1）	・前年度を上回る
WEBQU での学級集団の状態	○学級全体の状態が親和型の割合	・小 72% ・中 40%	・小 75%以上 ・中 50%以上

施策Ⅳ	今日的課題に対応した教育の充実（新化期②：1年次）

施策の目的	○中央教育審議会が示す「令和の日本型学校教育」及びそれを担う教師の在り方を踏まえ、変化の激しい社会に対応する教育内容の充実や教師の育成を目指す。

主要事業	
事業名	内容
個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進	◎児童生徒一人一人の学びを引き出すとともに、主体的かつ協働的な学びの実現のため、ICT を活用した学習支援の在り方を検討する。
働き方改革の推進	◎教職員の働き方改革を推進する。 ・各学校の実態に基づく働き方改革の推進 ・学校部活動の体制構築 （施策Ⅶと連携）
若年教員研修1年目（初任者研修）指導教員研修の実施 【宗像市との共催】	○初任者指導教員の資質向上により、初任者の学級経営力及び授業力の向上、ひいては、児童生徒の資質・能力の育成を図る。 指導教員研修会（年 3 回）の開催 ・指導教員としての心構え、校内での初任者研修の進め方 ・年間総括、次年度の研修の在り方
保・幼・小・中・（高）の連携推進 ☆子ども課との連携	○小1プロブレムや中1ギャップ等の予防・解決のために、幼児・児童・生徒及び教職員相互の異校種交流等を推進する。 ・保幼小接続推進協議会（年8回）の開催 ・中学校区の特色化につながる児童生徒及び幼児の園・学校訪問間交流
SDGsに向かう ESD の推進	○ESD(持続可能な開発教育)を推進し、SDGsに向かう持続可能な社会の担い手(人財)を育成する。

指　標			
指標	指標の概要・根拠資料	R5実績	R6目標値
教職員の長時間勤務の状況	月80時間以上超過勤務している教職員（管理職含む）の割合（4～12月実績）	・小 6.9% （△1.9） ・中 28.5% （▼9.7）	前年度を下回る
初任者の指導力の向上	「研修の内容を学級経営や授業づくりに反映できた」の肯定的回答	97.1 %	90%以上
指導教員よる研修の実施	「初任者研修を計画的に進めることができた」の肯定的回答	93.3 %	90%以上

施策Ⅴ	生涯学習の充実 地域・家庭の教育力向上（新化期②:1年次）

施策の目的	○生涯学習の充実を図るとともに、地域や家庭の教育を支える人財を発掘、育成する。

主要事業	
事業名	内容
福津市中学生未来会議の開催	◎「持続可能な福津市の未来」をテーマに、福津市をどんなまちにしていきたいか、自分たちにできることは何かを考え、市長・副市長・教育長に提言する取組を学校教育と社会教育の双方から推進する。
郷育カレッジと学校との連携	◎地域の「ひと・もの・こと」を活用して講座を実施している郷育カレッジの講師を体験活動の講師として紹介し、また、郷育カレッジの受講生と児童生徒がふれ合える講座を開設して、地域と学校の連携を深める。
地域・家庭の教育力向上の支援	○青少年育成市民の会を組織し、市全体で青少年の健全育成と環境浄化等に取り組む。また、小中学校PTAが開催する家庭の教育力向上のための研修や取組に対し、補助金を交付する。青少年指導員会や少年補導員会と連携した見守り活動や、地域パトロールを実施する。児童・生徒を対象に、生活リズムの向上のため「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進する。
FUKUTSU コミュニティ・フェスタの開催	○学校・園の C・S の取組や社会教育における活動の取組について、保護者や地域住民に広く周知し、社会総がかりで子どもを育てる意識を高める機会とする。

指　標			
指標	指標の概要・根拠資料	令和５年度	目標値
郷育カレッジと学校との連携数	・小中学校との共同事業の実施数 ・小中学校への講師の派遣数	・3 講座 ・2 講座	・前年度を上回る ・前年度を上回る
小中学校と PTA による家庭教育の充実	青少年育成市民の会「家庭の教育力向上事業」実施学校数	小学校7校 中学校3校実施	小学校 7 校 中学校 3 校実施

施策Ⅵ	子どもの体験活動の充実　　（新化期②：1年次）

施策の目的	○様々な体験活動に参加し、集団生活の大切さや自然環境保護の意義等を学び、児童生徒の主体性、協調性、規範意識や自尊感情の高揚を図る。

主要事業	
事業名	内容
青少年育成団体の支援	◎市の子ども会育成会連合会など、青少年育成団体に対する財政面での支援のほか、団体の活動に対して指導や助言を行い、環境づくりを支援する。
アンビシャス広場の支援	○放課後や休日の児童の居場所づくりや、年齢に応じた様々な体験の機会を提供するため、地域全体で子どもを見守るアンビシャス広場の環境づくりを支援する。
親子野外活動支援事業の実施	○市の豊かな自然環境を活かした活動や伝統文化の体験を通して、市の魅力を感じ、関心を持つ機会を提供することで郷土愛を育む。また、親子での活動を通して、一緒にやり遂げる充実感や家族の絆を深めるとともに、身近な自然に関心を持ち、環境保護の意義を学ぶ場とする。

指　標			
指標	指標の概要・根拠資料	令和5年度	目標値
アンビシャス広場 参加者数	・アンビシャス広場活動数 ・アンビシャス広場活動参加者数	・7 広場 ・延べ 3,937 人 （上半期実績）	・7 広場 ・前年度を上回る
親子野外活動 参加者数	・親子野外活動総参加者数	262 人	前年度を上回る

施策Ⅶ	スポーツ・文化芸術活動の充実　（新化期②：1年次）

施策の目的	○スポーツに触れ合う機会を創出し、また、地域文化を振興することで、心身の健康とスポーツ、文化芸術活動を通じた郷土愛、地域コミュニティの醸成を図る。

主要事業	
事業名	内容
部活動地域移行への取組	◎中学校部活動のあり方について、関係者による検討協議会で検討を行い、休日の中学校部活動の地域移行をはじめとした部活動改革を進めることで、子どもたちがスポーツ及び文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保し、また、学校の働き方改革を推進する。（施策Ⅳと連携）
世界遺産学習の推進	◎「ふるさと福津」副読本を用いて、世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の学習を推進する。
海洋スポーツ体験活動の実施	○カヤックやヨットなどの海洋スポーツ体験をとおして、児童が海と親しむ機会を作る。子どもたちの健全育成を図るとともに、海を取り巻く環境問題や海と人との歴史を学び、郷土が誇る資源を体感する。
体力チャレンジランキング in ふくつの開催	○スポーツをする子どもとしない子どもの二極化が進んでいることから、子どもたちがスポーツの楽しさや効果を実感してもらうため、体力チャレンジランキング in ふくつを開催する。各小学校においては新体力テスト前に、スポーツ推進委員が出向き、保護者も含め、走り方や投げ方、反復横とびの要領などを直接子どもたちに指導し、記録改善を目指す。
芸術文化事業の開催・支援	○文化芸術イベントによる本物の芸術を鑑賞する機会の充実、児童が行っている伝統文化継承活動への財政面での支援などにより、児童生徒の心の豊かさの醸成を図る。
読書活動の充実	○生後４か月健診時の「ブックスタート事業」や市立図書館での０歳児からのお話し会や読み聞かせ活動により読書への関心を高める。「子ども司書養成事業」により、学校や地域での読書リーダーを育て、読書活動の充実を図る。

指　標			
指標	指標の概要・根拠資料	令和5年度	目標値
海洋スポーツ体験活動実施数	・海洋スポーツ体験活動実施数 ・海洋スポーツ体験活動参加者数	6校延べ 20 回 723 人	7 校実施
全国体力・運動能力等調査	小中学校男女の体力合計点Ｔ得点 （全国平均値に対する相対的な位置）	小５男子 49.0 小５女子 47.3 中２男子 51.4 中２女子 50.5	全国平均値 50.0 を上回る
読書活動参加・実施数	・ブックスタート事業実施率 ・子ども司書養成講座(全7回)参加者数	・97.6% ・19人	・100% ・定員を満たす